

「光輝（かがやき）」プログラム		義務教育完成期	8年生	(全 50 時間)
8年生で育成したい資質・能力				
育成したい 資質・能力	躍動する感性	① 人間味溢れる豊かな感覚	自分とは違う考え方をもちた他者の存在を認めながら、自分の価値を追求することができる。	
		② 自ら学ぼうとする姿勢	社会・集団・個人のあるべき姿を想像し、その実現に向けて、自発的、能動的に探求的学習や課外活動に取り組むことができる。	
	レジリエンス	③ 粘り強く取り組む力	解決が困難な場合でも、解決への見通しをもち、改善を図りながら問題の解決に向けて取り組むことができる。	
		④ コラボレーションする力	目標に向かって共同で取り組む際に、責任感をもって自分の役割を果たすことで、集団の課題を解決することができる。	
		⑤ 複眼的に思考する力	立場や年代などの違いを踏まえて事実や出来事とらえ、実践していくことで、自らの行動を振り返り、これからの自身のあり方に目を向けることができる。	
	横断的な知識	⑥ 知識と知識を関連づけながら深く追究する力	原理・法則や過去の成功例を別の事象にも応用したり、収集した情報から共通項を探ったりすることで、一定の結論を導くことができる。	
		⑦ 論理的に問題を解決する力	直面した問題について現状の把握と課題の設定を行うとともに、課題解決策の立案と実行し、解決策を客観的に評価することができる。	

単元名	「大志を抱く探究学習」
単元を通して めざす子ども像	身近な問題などから興味関心があることをテーマとする。そして、誰のためになるのかを明確にして、自ら課題を見つけ、解決に向けて追究することができる。解決するにあたり、各教科で身に付けた見方や考え方を積極的に活用する。また、調べた情報をまとめるだけでなく、自ら実際に調査や検証をし、オンラインツールを活用しながらまとめていく力を養う。最終的には、他者との対話を重視し、地域・社会へと視野を広げ、自発的に学んだことを活用し、誰かのために役に立つ問題提起や解決策を発表する。この探究活動を通して、「人のために尽くして感謝する」の意味を考え、自分自身のこれからの生き方を考えることができる。

段階	I (1~6)	II (7~32)	III (32~44)	IV (44~50)	
学習課題	資質・能力系統表に書かれている目指すべき姿をどのように自分たちが使えるものにできるか	社会の役に立つための問いを設定することができるか	各教科の見方・考え方を活用して問いの答えを見つけることができるだろうか	どのようにすれば、全校生徒にわかりやすくポスター発表を行うことができるだろうか	
育成したい 資質・能力	人間味溢れる 豊かな感覚	自分がどんな人間か見つめ直す		全校で発表する	
		認識する・見直す		提案する・コミュニケーションをとる	
	自ら学ぼうとする姿勢	目指す姿を設定する	論文を書く意義について考える		
		見極める・言い換える	言及する		
	粘り強く取り組む力		問いを見つける 創造する・作り出す		
	コラボレーション する力	よりよい学級について考える(道)			
		振り返る・議論する			
	複眼的に思考する力		他者の班と意見交流する 議論する・協力する	中間発表を行う 質問する・評価する	
知識と知識を関連づけながら深く追究する力		論文や文献から課題を明確にする 集める・発見する	各教科の視点から問いの解決方法を探る 生み出す・構成する		
論理的に問題を解決する力			論文を作成する 組み立てる・整える	発表の内容や順序について検討する 再考する・要約する	
関連する 活動	教科		数学(統計)	国語(プレゼンテーションをしよう)	
	方法知・見方・考え方		数学的モデルの作り方	プレゼンテーションのまとめ方	
	活動	道徳の教科書の「自分で決めるって?」を題材として、集団の一員としてよりよくあるために大切なことについて話し合う。【1】	道徳の教科書の「スカイツリーにかけた夢」を題材として、探究学習を始めた自分と重ね、新しいものを生み出す際に必要なことについて話し合う。【1】	道徳の教科書の「二通の手紙」を題材として、ルールがなぜあるのかについて複数の視点から話し合う。	
	内容項目	よりよい学校生活、集団生活の充実	真理の探究、創造	遵法精神、公德心	
	活動		道徳の教科書の「なぜだろう」を題材として、お互いを許し合う寛容な心の持ち方について話し合う。【1】		
	内容項目		相互理解、寛容		
	働きかけ	学級を運営していくクラスの係・日直の仕事をも自分達で決めさせる。	資料を集めるために、図書室を利用するように促す。	研究動機やリサーチクエスチョン、研究計画について、生徒同士で交流をし、意見やアドバイス・評価・質疑応答を行い研究を改善できるように促す。	他のグループの発表を聞きに行く際には、緑色の付箋は、良いところ、黄色の付箋は質問や意見を記述させ、ポスターに貼らせる。
働きかけ	よりよい学級にするために、学年目標に基づいてクラスの目標を決めさせる。	他者評価を行い、互いの行動を評価できるように促す。			

評価方法	ポートフォリオ・観察	ポートフォリオ・観察・面談	ポートフォリオ・観察・面談	ポートフォリオ・発表の相互評価
------	------------	---------------	---------------	-----------------

「光輝（かがやき）」実践記録		義務教育接続期	8年生	(全 50 時間)	
単元名		「大志を抱く探究学習」			
段階	評価方法	資質能力	子どもの姿	教師の気づき	
				計画変更点・理由	有効であった手立て
I	様相・振り返り	① ② ④	<p>四人1グループの班になり、自分達のこれまでの活動を振り返り、資質能力系統表の言葉を検討した。検討する中で、あいまいに使っていた表現や、合意形成とはどのような意味なのかについて疑問を持った。そこで、体育館で、各班で考えた案を発表し、お互いに意見を言いながら、言葉の意味や表現について問い直すことができた。</p>		<p>資質能力系統表を自分達の言葉で書き直した。そうすることで、言葉の意味を理解したり、考えことで、目指すべき資質能力を把握することができた。また、教員の決めたものではなく、子どもとともに作った制作物とすることができた。</p>
II	ワークシートの記述	③ ⑥	<p>めることができた。また、研究方法に着目して、質的な研究方法か量的な研究方法かにわけて整理している生徒もいた。</p> <p>先輩方の論文を参考にして、研究計画を、以下の項目にしたがって、各自でまとめることができた。</p> <p>①研究方法は ②①の方法で何を明らかにするのか ③いつ実施するのか（いつ頃・調査日・調査期間） ④誰に（調査対象）場所は ⑤その方法を実行するための準備物 ⑥費用は ⑦事前に誰かにお願いしたり予約などが必要なのではないか ⑧アンケートや誰かに何かをお願いする場合は実際に文章を書いてみる。どんな研究をして何を明らかにするから、何をお願いしたいのかなど。</p>	<p>問いを立てる際に資料の調べ方がわからないということであったので、全体で資料の探し方について具体的に確認を行った。</p>	<p>先輩の作成した論文を読ませる時間を取ることで、2年先にゴールがイメージできた。</p> <p>また、具体的に検索方法について（キーワードに分けて検索するためには、文節で区切り、3つくらいの単語を並べて検索をかけて調べる）伝えた。</p>
	ワークシートの記述	① ② ③ ⑤	<p>振り返りの記述から以下の姿が確認できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できそうにないことを成し遂げるには、自分の行ったことが誰かの役に立つのを想像するといいとわかった。 ・やってみないとほじまらないということを学んだからとりあえず試してみたいと思った。 ・探究学習を始めるまでがとても難しいと思え、すこし不安です。ただ、スカイツリーのように本気で頑張ればできないこともないと思うので、気合いを入れてやっていきたい。 ・自分が書いてきたやつは、だれかの役に立つことじゃなかったし、全員の興味をひけることがかけていなかったの、なおしたい。 ・大事だと思ったのは、「先を見通して物事を進めていく」ことで、先を見通せることで、どのような方向性でどのように進めていくかが明確になり、進み具合も良くなると思ったから。 ・色々な方法で追究することが大切だとわかった。 		<p>探究学習を進めて行くにあたり、何か新しいものを生み出す苦労を実感する時期である。そこで、中学校3年生の道徳の教材である「スカイツリーにかけた夢」を読み、新しいものを作り出す大変さを自分達と照らし合わせながら読み、乗り越えるためには何が必要なのか、方法だけでなく、気持ちの持ち方についても考えさせることができた。</p>
	オンライン上の振り返り	③ ⑤ ⑦	<p>振り返りの記述から以下の姿が確認できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手がどんな評価をしているのかわからないけど、たぶん自分と相手の評価の基準が少しだけ違うと思う。だから、評価基準は全体で決めているけど、人それぞれの甘さだったり違うところもあると思った。 ・他者で、誰かもわからない中、文面だけで評価する時、具体的に記述してくれないと評価が妥当であるか、評価できないと感じた。 ・人を見てみると、意外と評価に肝心なことが書かれていなかった。自分もその時は意識していなかったけど、もしかしたら評価内容に適した振り返りが書いていなかったかもしれないので、次こういう振り返りを書くときはABCそれぞれの評価の観点に気をつけながら、振り返りをしていきたい。 	<p>ルーブリックに基づいた生徒の評価の妥当性を確認するにあたり、記述の量と質が不十分であった。</p>	<p>友達の記述からルーブリックに基づいて評価する活動を行うことで、どのような内容について記述すれば良いか、また、どんくらい記述を書けば良いかについて実感させることができた。</p>
III	オンライン上の振り返り	④ ⑤ ⑥	<p>振り返りの記述から以下の姿が確認できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな視点から状況判断をする力がついた ・他者と意見を交流する力がついた ・道徳での学びと働くことの意味を関連付けられたので、知識と知識を関連付けながら追求する力がついたと思う。 		<p>探究学習において視野を広げて課題を見る力が必要である。そこで、道徳の教材である「二通の手紙」を読み、ルールについて様々な視点から考え、ルール事態に思いやりが詰まっていることに気付かせることを通して、俯瞰して広い視野から見ることを学ぶことができた。</p>
IV			現在III段階のため、まだ記述していません。		